

令和7(2025)年

8月号

去年のモクレンに続き、ロウバイが招かれは

心耕

shin koh
しんこう

西光寺口報

今月の行事

・ 歓喜会(盆会) 予約不要

・ 十二・十三・十四日

午前六時半〜午前十時 / 午後一時〜

・ 草取り 十日(日) 午前八時〜

・ 暑さ対策をし、かりんこ、

・ お寺の林間学校 十八〜二十日

・ 那須高原に行きます!

・ 寺カス 二十四日(日) 午前十時〜

・ バルーンアート体験

・ ヨガ 毎週火曜 毎回千円

・ ※十二日休み

・ お朝事 毎朝六時半〜

・ 朝は規則正しく

・ 法名ご希望の方

・ 法名「釋○○」は生前に頂くのが正

式です。ご希望の方は、二頁左下を参考

にして、お寺に申込みをお願いします。

子とも頃、台風で休校に

なる事をワクワクした経験

は、ないだろうか。

七月中旬、台風五号が近づ

いた。休校の可能性があると

メールが来た。小五娘は「やっ

たー!」と喜んだ。

次の日、台風はそれて、通

常登校となった。娘は世界

が終わったかのように、がっかりし

ていた。「台風のバカヤロー!」

台風が悪いのだろうか。勝ち

に期待して、がっかりしているの

である。が、かりした経験は

ないですか。相手が悪いですか。

私ですか。仏教は私と答えます。

盆参り申込みまだの方

急いでお寺に連絡を!

お盆のご案内

お寺での法要の部

日にち：12日(火)、13日(水)、14日(木)

時間：6:30～／10:00～／13:00～ ＊予約不要です

法話：小笠原宣隆師（島根県邑智郡邑南町西福寺住職） 6:30回は西光寺自勤

家庭参りの部

すでに7月号に返信用はがきを同封し、お盆の家庭参りを受け付けています。まだハガキを出していない方は早めに出していただくようお願いいたします。また、電話でも受け付けておりますのでお申し込みください。若住職ひとりでお参りをしていますので、多少の時間の前後や日程調整お許しください。

各種ご案内

・お朝事

毎朝六時半～七時、お勤めをしています。日々のお参り、命日などにお参り下さい。

・草取り

十日(日) 八時～九時 雨天中止

・写経会

休み

・壮年会・婦人会主催の勉強会

休み

・Youtube 西光寺チャンネル新作配信！

勤行「さんだんのうた」追加
他にも節談や紙芝居、アニメ、読経を上げています。QRからどうぞ！

・はじめてのヨガ



毎週火曜(祝日休) 十三時～ 毎回千円
ヨガマット持参 予約不要 ＊十二日休
インストラクターのマリコ先生がビュート
イージャパン千葉大会で優勝、次は全国

みんなの寺カフェ

みんなの寺カフェ
バルーンアート体験
8/24(日)
10:00～12:30
会場：大人500円
子ども無料
7月14日(土)24日(日)
昼食付
お寺まで
締切 二十日

場所：西光寺
(市原市根田723-1)
連絡先：0436-22-7412
公式LINE
主催：みんなの寺カフェ 共催：西光寺

・法名をご希望の方

十一月十二日に築地本願寺へ団体参拝をします。その時に法名(帰敬式)をいただけます。法名は生前に付けるのが正式です。法名には二種類あります。

- ・内願法名：入りたい文字がある方
- ・選定法名：本願寺から賦与

内願法名希望の方は、8月中旬に西光寺へ連絡をして下さい。指定の手続きがあります。選定法名ご希望の方は、十月号に掲載予定の申込用紙と共に受式の旨をお伝えください。

袈裟

袈裟懸けのバッグ
という言い方があり
ます。これは、肩から



コツコツコツコツ
これが目的地の
最短ルート

斜めに懸けるバッグの事です。 剣術に於いて袈裟切り

という言い方あります。これは、相手に向かって右肩から左脇に斜めに切る事です。

袈裟は、出家者の衣の事で、古代インド語で Kasaya と表記し、赤褐色という色の意味でした。これは、出家者は財産を持つことを禁じられており、衣服も同様でした。そこで、もう使われていない布などをつなぎ合わせて一つの衣にしました。在家の人や他の宗教者と区別をするため、草や錆などで染色をし、オレンジ色になったため、Kasaya と言われたのです。

普段は両肩に巻き付けるように身にまとい、尊敬する方に会う時には、右肩を出します。これは、インドでは右は清浄を表し、右肩を出すことは敵意がない事を意味したのです。そして、左肩から斜めに懸ける事から、袈裟懸け、袈裟切りという言葉が生まれたのです。

この袈裟は、中国において、儀礼用に装飾をされ、華美になっていきました。



こんなところに

仏教用語

用教仏近
語を紹介して
います。

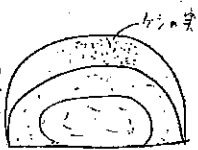
芥子

アンパンやお菓子にまぶ
されている事がある芥子の
実。今回は「芥子」のご紹介



です。芥子自体は仏教用語ではありませんが、お経の中に「芥子の実」が時々出てきます。芥子の実は非常に小さく、日本で5月ぐらいにオレンジの花を咲かせるナガミヒナゲシは、花が咲いた後の実の中には、一六〇〇粒の種が入っているそうです。古代インドにおいて、薬用や食用、油の原料として民衆にも広まっていました。現在の日本では、芥子の種類によってアヘンなどの材料になるため、違法になるので注意が必要です。仏典での芥子の有名な所は、芥子劫という時間の長さの譬えです。阿弥陀如来が人々を救うために思案をされた時間が五劫です。一劫が、約十キロ立方メートルの大きな箱の中に芥子の実が満杯に入っていて、数年に一度一粒取り出し、芥子の実がすべてなくなった時間が一劫と表します。永遠の時間を古代インド人は譬えたのです。

また、子どもを亡くした母親が釈尊に相談し、釈尊から「一



人も死者を出していない家から芥子の実をもらってきなさい」といい、母親は死者を出したこのない家は一軒もない事を悟ります。



お茶を楽しむ勉強会

主催 西光寺婦人会

共催 " 壮年会

仏教と関係が深い「お茶」を楽しみながら和の文化を学び、門信徒の交流を図る勉強会を下記のとおり開催します。茶道の経験が無い方・男性也大歓迎です。皆さまのご参加をお待ちしております。

令和7年度勉強会開催日及び実施内容等: 下表参照

会場: 西光寺 対象者: 門信徒 開始時間: 10時 講師: 矢元久代先生

勉強会テーマ	開催日時	参加費	内容(一部調整中)	備 考
茶道の基本を学びましょう！！ 抹茶ってどんな味？ 和菓子とお茶を楽しもう	9月16日 火曜日	500円	・茶道の基本作法について学ぶ 挨拶、茶碗の扱い方 抹茶の点て方、飲み方、菓子の食べ方等	・参加申込 9月10日 まで ・終了時間 12時
お茶の効能を学びましょう！！ 抹茶で免疫力アップ 美肌効果は？	10月6日 月曜日	1,000円 交流会不参加の場合は、500円	・茶道の基本作法、効能について学ぶ ・10月25日開催する茶会に向けた模擬練習 ・交流会で親睦を図る	・参加申込 10月2日 まで ※交流会 (昼食)あり ・終了時間 13時
さあ、やってみましょう！！ お茶会本番を楽しもう	10月25日 土曜日	1,000円 交流会不参加の場合は、500円	・基本の作法などの学びを基に、実際に茶会を体験する ・交流会で親睦を図る	・参加申込 10月20日 まで ※交流会 (昼食)あり ・終了時間 13時

※参加希望の方は、西光寺(☎22-7412)あて電話でお申し込みください。

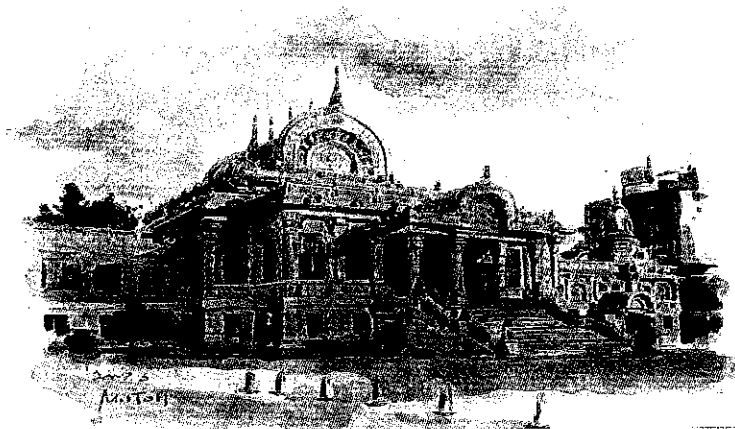
なお、内容等は予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。



西光寺仏婦仏壮合同企画

節談説教布教大会 & 築地で寿司ツアー

9月11日(木)



若住職が所属する節談説教研究会の
関東支部の布教大会が築地本願寺で開催です。

心に響く説教を聞きませんか？

せっかく築地に行きますので、お寿司もいただきましょう。築地の買い物時間も設けます。

日にち：9月11日(木)

時 間：9：30 西光寺集合 17：00 西光寺解散

参加費：5000 円（懇志、昼食、保険等） *お支払いは当日でお願いします。

開催地：築地本願寺 講堂

行 程：：9：30 西光寺出発→10：30 築地本願寺着→築地買い物→11：30 昼食（寿司）→
12：30 節談説教大会→16：00 築地本願寺出発→17：00 西光寺着

申 込：下の表に記入し、西光寺へ

締 切：8月末まで（事前に打ち切る可能性もありますのでお早めに）

切り取り線

申込書	氏名	住所
節談	生年月日	年 月 日 (歳) 保険等加入の為必修

仏教を0から学んでみませんか！

浄土真宗はじめの一步 第5期生募集！

浄土真宗の基礎を知りたい、家でお経が読めるようになりたいと言う方におすすめの、1年をかけて基礎を学ぶ講座です。仏教に今まで触れることが無かった、1から学びたいと言う方を対象にしています。全9回の講座を予定しています。

今期は、浄土真宗に於いて大切なお経のひとつ、^{かんむりようじゅきょう}観無量寿経を学びます。大変ドラマチックなお経です。

内容：^{かんむりようじゅきょう}観無量寿経を学ぶ 読経（観無量寿経を中心に）

みなさまのアンケートを参考に

参加要項

参加資格：どなたでも

参加費：初回のみ1000円（申込時か初回時、テキスト代として）

時間：13:00～15:00

備考：全9回中、7回以上の出席で卒業です。

都合がつかない方は補講も致します。

連絡先：西光寺 0436-22-7412

	日にち			日にち
第1回	12/12（金）		第6回	6/12（金）
第2回	2026/2/12（木）		第7回	7/12（日）
第3回	3/12（木）		第8回	9/12（土）
第4回	4/12（日）		第9回	10/12（月）
第5回	5/12（火）		卒業式	11/21（土）

----- 切り取り線 -----

はじめの一步申込用紙

氏名

連絡先

衆生往生の華 1 『大経』末二

前回は分かりにくい話では有ったと思いますが、簡単に言えば親鸞聖人は『大経』下巻を中心に衆生が往生していく道であると読み込んで『教行信証』を構成されていますと言う事です。

先ず初めに「^其それ衆生ありてかの国に生るるものは、みなことごとく^{十八願の機}正定の聚に住す。ゆゑはいかん。かの仏国のなかにはもろもろの邪聚^{十九願の機}および不定聚^{二十願の機}なければなり」と十一願成就文を掲げています。これは衆生が往生するという結論としています。どんな理屈でも結論が先行します。判決を言い渡した後に理由を述べる裁判所の判決文と同じです。最初の「それ」は「其」の字で以下の文を強調している語で、次の十七願成就文及び十八願成就文を含みます。また「ゆゑはいかん」と理由を述べるのは、邪聚や不定聚について、還相回向について、五善五惡に触れていく以下の『大経』下巻の正宗分全体を示しています。親鸞聖人はこの流れを『化身土巻』に三願転入として短い文章で纏めています。

続いて「十方恒沙の諸仏如来は、みなともに無量寿仏の威神功德の不可思議なるを讃歎したまふ」と

十七願成就文を掲げています。十七願の文は『大経』の到る所に表現されています。諸仏が阿弥陀仏を讃嘆することが『大経』の中心課題で大行として有ります。みんなが褒め称えているのです。『重誓偈』の「名声超十方 究竟^{くきよう}靡^み所聞^{みきこ}」と親鸞聖人も大事にされている部分で私達に届いている事なのです。しかしそのことが判然としないのが我等凡夫なのです。何度も繰り返し語るのが『大経』です。

私達には諸有衆生としてそれぞれに、仏性が有ると言われています。このことは『涅槃経』や『華嚴経』などの多くの經典に示されています。その仏性が他の仏性の声を聞くところによつて南無阿弥陀仏と称えるのです。『歎異抄』に「往生をばとぐるなりと信じて念仏申さんとおもいたつころのおこるとき」と、この「信じて」が名号を確かに聞き受け止めた時なのです。また「こころのおこるとき」は諸仏咨嗟^{しんさ}の願十七願に阿弥陀如来の願^{おんがら}いに交応した時なのです。「おこる」は自動詞の「起」の字で自然に起き上つて、涌き上がってくることを指しています。世間はこの名号で満ち満ちています。それが次の十八願成就文へと続きます。

住職多感

子供たちは夏休みに入った。梅雨が終わり間近かになっての少々雨で済んで、暑さは五月の末から続いている。陽射しの強さに去年はハクモクレンが枯れ、今年は蠟梅が枯れようとしている。蟬の声をまだ聞いていない。遠くから聞こえてくる感じはするがこれは耳鳴りである。子供の頃から左耳が難聴で、母が「私が耳かきを好きすぎてお前の耳を悪くした」、と話していたが、以来ずっと耳鳴りは聞こえ続けている。母の思い出だ。

参院選の結果が出て、是々非々、いろんな話があるんな所から聞こえてくる。投票に行かなかった者が何を云うかと言われそうだが、当たり触りを考えずにものを言いたい。

結果それ自体はこうなっちゃってしまっているのだから受け入れるだけのことだ。しかし

石破総理になって、国会の討論が大きく変わった。議論がかみ合うようになったのだ。小泉・安倍と続いて国会の議論はひど

くなる一方だった。立憲が野田という論客を据えているのに、まともな論戦に応じぬ安倍元総理に幾度テレビを消したのか。

論戦が充実してこそ、強行採決も牛歩戦術も意味を成す。課題が噴出するからこそ論点・争点を端的にあぶり出す議論が必要であると思う。

馬の鼻先に人参をぶら下げ、馬車を走らせようとする漫画のような選挙は御免蒙る。

踊る阿呆に見る阿呆、同じ阿呆なら躍らにやソンソソ。ファースト騒ぎは、この夏の阿波踊りで踊り飛ばそう。それでヨサコイヨサコイ。『あんぱん』を最終回まで楽しもう。

十六日の御命日法座、案内忘れて御免なさい。八月休み、九月から再開です。

ナマングダブ
ナマングダブ

九月の行事

- 三日 勉強会
- 十二日 勉強会・はじめの一步
- 十四日 草取り
- 十九日 写経会
- 二十二～二十四日 彼岸会
- 二十八日 寺カフエ
- ヨガ 毎週火曜(二十三日休)
- お朝事 毎朝

発行

浄土真宗本願寺派(西)
西光寺

〒二九〇—〇〇二四
千葉県市原市根田

七二三—一



TEL : 0436-22-7412
FAX : 0436-24-1652
HP : <https://www.saikohji.net>
MAIL : saikohji@saikohji.net